

エルサレムに攻のばれり。その戦車ハ一千二百騎兵ハ六萬、また彼に從がひてエゾラトより來れる民ルビ人、エラオベア人等の數を計す。彼すなわちエゾの守衛の邑々を取り進てエルサレムに至る。是においてレハスアムおよびエゾの牧伯等、エゾの故によりてエルサレムに集まり居けるに預言者シヤヤこれが詩にいたりて之に言けるハ、エホバハかく言たまふ汝等ハ我を棄たれば、我も汝らをシヤヤの手に還おけり。是をもてエラオベアの牧伯等および王ハ自ら舉ぐしてエホバハ言ひて、エホバハ言ひて、我ハ自ら舉ぐするを見たまひければ、エホバの言シヤヤに聽きて言ふ、彼等ハ自ら舉ぐしたれば、我かれら滅ぼさず。少く拯救を彼らに施てさん、我ハシヤヤの手をもて我忿怒をエルサレムに洩さじ。然ながら彼等ハ之が臣とならん、是彼らが我に事ふる事。國々の王等に事ふる事の辨をまらん爲なり。とエホバの王シヤヤすなはちエルサレムに攻のぼり、エホバの家の寶物と王の家の寶物とを奪ひて盡くこれを取り、又シロモンの作りたる金の楯を奪ひさされり。是をもてレハスアム王の代に銅の楯を作り、王の家の門を守る侍衛の長等の手にこれを交し置けるが、王エホバの家に入る時、侍衛きたりて之を負ひまた侍衛の房にこれを持ちかへれり。レハスアム自ら舉ぐしたれば、エホバの忿怒かれを離れ、これを盡く滅ぼさん。と爲たまふ。又エゾにも事ありき。○レハスアム王ハエルサレムにありてその力を強くし、世を治めたり。即ちレハスアムハ四十一歳のとき位に即き十七年の間エルサレムにて世を治む。是すなはちエホバがその名を置んとて、エラエルの一切の支派の中より選びたまへる邑なり、彼の母ハアモニ人にしてその名をナアヤといふ。レハスアムハエホバを求むる事に心を傾け、けしめて惡き事を行なへり。レハスアムの始終の行爲ハ預言者シヤヤの書および先見者イサヤの書の中、系圖の形に記さるゝに非ずや。レハ

レハスアム九章九十三節
レハスアム十章一節
レハスアム十章二節
レハスアム十章三節
レハスアム十章四節
レハスアム十章五節
レハスアム十章六節
レハスアム十章七節
レハスアム十章八節
レハスアム十章九節
レハスアム十章十節
レハスアム十章十一節
レハスアム十章十二節
レハスアム十章十三節
レハスアム十章十四節
レハスアム十章十五節
レハスアム十章十六節
レハスアム十章十七節
レハスアム十章十八節
レハスアム十章十九節
レハスアム十章二十節
レハスアム十章二十一節
レハスアム十章二十二節
レハスアム十章二十三節
レハスアム十章二十四節
レハスアム十章二十五節
レハスアム十章二十六節
レハスアム十章二十七節
レハスアム十章二十八節
レハスアム十章二十九節
レハスアム十章三十節
レハスアム十章三十一節
レハスアム十章三十二節
レハスアム十章三十三節
レハスアム十章三十四節
レハスアム十章三十五節
レハスアム十章三十六節
レハスアム十章三十七節
レハスアム十章三十八節
レハスアム十章三十九節
レハスアム十章四十節
レハスアム十章四十一節
レハスアム十章四十二節
レハスアム十章四十三節
レハスアム十章四十四節
レハスアム十章四十五節
レハスアム十章四十六節
レハスアム十章四十七節
レハスアム十章四十八節
レハスアム十章四十九節
レハスアム十章五十節
レハスアム十章五十一節
レハスアム十章五十二節
レハスアム十章五十三節
レハスアム十章五十四節
レハスアム十章五十五節
レハスアム十章五十六節
レハスアム十章五十七節
レハスアム十章五十八節
レハスアム十章五十九節
レハスアム十章六十節
レハスアム十章六十一節
レハスアム十章六十二節
レハスアム十章六十三節
レハスアム十章六十四節
レハスアム十章六十五節
レハスアム十章六十六節
レハスアム十章六十七節
レハスアム十章六十八節
レハスアム十章六十九節
レハスアム十章七十節
レハスアム十章七十一節
レハスアム十章七十二節
レハスアム十章七十三節
レハスアム十章七十四節
レハスアム十章七十五節
レハスアム十章七十六節
レハスアム十章七十七節
レハスアム十章七十八節
レハスアム十章七十九節
レハスアム十章八十節
レハスアム十章八十一節
レハスアム十章八十二節
レハスアム十章八十三節
レハスアム十章八十四節
レハスアム十章八十五節
レハスアム十章八十六節
レハスアム十章八十七節
レハスアム十章八十八節
レハスアム十章八十九節
レハスアム十章九十節
レハスアム十章九十一節
レハスアム十章九十二節
レハスアム十章九十三節
レハスアム十章九十四節
レハスアム十章九十五節
レハスアム十章九十六節
レハスアム十章九十七節
レハスアム十章九十八節
レハスアム十章九十九節
レハスアム十章百節

ハスアムとサラスアムの間に絶えず戦ありき。レハスアムの先祖等とともて寝りて、エビデの邑に葬られ、其子アビヤ之にかはりて王となれり。○サラスアム王の十八年にアビヤエゾの王となり。○エルサレムにて三年の間世を治めたり。其母ハギスアのウリエルの女にして名をミカヤといふ、茲にアビヤとサラスアムの間に戦争あり。アビヤハ四十萬の軍勢をもて戰に備ふ、是みな僂強の猛き武夫なり、又サラスアムハ僂強の八八十萬をもて之にひかひて争の行伍を立つ。是また大勇士あり。時にアビヤエゾの山地なるセラヤム山のの上に立て言けるハ、サラスアムよびエラエルの人々皆聽よ。汝ら知よ、エラエルの神エホバの誓の上に立て言けるハ、サラスアムよびエラエルの人々皆聽よ。汝ら知よ、エラエルの神エホバの誓

レハスアム九章九十三節
レハスアム十章一節
レハスアム十章二節
レハスアム十章三節
レハスアム十章四節
レハスアム十章五節
レハスアム十章六節
レハスアム十章七節
レハスアム十章八節
レハスアム十章九節
レハスアム十章十節
レハスアム十章十一節
レハスアム十章十二節
レハスアム十章十三節
レハスアム十章十四節
レハスアム十章十五節
レハスアム十章十六節
レハスアム十章十七節
レハスアム十章十八節
レハスアム十章十九節
レハスアム十章二十節
レハスアム十章二十一節
レハスアム十章二十二節
レハスアム十章二十三節
レハスアム十章二十四節
レハスアム十章二十五節
レハスアム十章二十六節
レハスアム十章二十七節
レハスアム十章二十八節
レハスアム十章二十九節
レハスアム十章三十節
レハスアム十章三十一節
レハスアム十章三十二節
レハスアム十章三十三節
レハスアム十章三十四節
レハスアム十章三十五節
レハスアム十章三十六節
レハスアム十章三十七節
レハスアム十章三十八節
レハスアム十章三十九節
レハスアム十章四十節
レハスアム十章四十一節
レハスアム十章四十二節
レハスアム十章四十三節
レハスアム十章四十四節
レハスアム十章四十五節
レハスアム十章四十六節
レハスアム十章四十七節
レハスアム十章四十八節
レハスアム十章四十九節
レハスアム十章五十節
レハスアム十章五十一節
レハスアム十章五十二節
レハスアム十章五十三節
レハスアム十章五十四節
レハスアム十章五十五節
レハスアム十章五十六節
レハスアム十章五十七節
レハスアム十章五十八節
レハスアム十章五十九節
レハスアム十章六十節
レハスアム十章六十一節
レハスアム十章六十二節
レハスアム十章六十三節
レハスアム十章六十四節
レハスアム十章六十五節
レハスアム十章六十六節
レハスアム十章六十七節
レハスアム十章六十八節
レハスアム十章六十九節
レハスアム十章七十節
レハスアム十章七十一節
レハスアム十章七十二節
レハスアム十章七十三節
レハスアム十章七十四節
レハスアム十章七十五節
レハスアム十章七十六節
レハスアム十章七十七節
レハスアム十章七十八節
レハスアム十章七十九節
レハスアム十章八十節
レハスアム十章八十一節
レハスアム十章八十二節
レハスアム十章八十三節
レハスアム十章八十四節
レハスアム十章八十五節
レハスアム十章八十六節
レハスアム十章八十七節
レハスアム十章八十八節
レハスアム十章八十九節
レハスアム十章九十節
レハスアム十章九十一節
レハスアム十章九十二節
レハスアム十章九十三節
レハスアム十章九十四節
レハスアム十章九十五節
レハスアム十章九十六節
レハスアム十章九十七節
レハスアム十章九十八節
レハスアム十章九十九節
レハスアム十章百節

ハスアムとサラスアムの間に絶えず戦ありき。レハスアムの先祖等とともて寝りて、エビデの邑に葬られ、其子アビヤ之にかはりて王となれり。○サラスアム王の十八年にアビヤエゾの王となり。○エルサレムにて三年の間世を治めたり。其母ハギスアのウリエルの女にして名をミカヤといふ、茲にアビヤとサラスアムの間に戦争あり。アビヤハ四十萬の軍勢をもて戰に備ふ、是みな僂強の猛き武夫なり、又サラスアムハ僂強の八八十萬をもて之にひかひて争の行伍を立つ。是また大勇士あり。時にアビヤエゾの山地なるセラヤム山のの上に立て言けるハ、サラスアムよびエラエルの人々皆聽よ。汝ら知よ、エラエルの神エホバの誓の上に立て言けるハ、サラスアムよびエラエルの人々皆聽よ。汝ら知よ、エラエルの神エホバの誓。約をもてエラエルの國を永くアビヤとエゾの子孫に賜へり。然るにアビヤの子シロモンの臣たる者、アビヤの子サラスアム興りてその主君に叛き、邪曲なる放蕩者之れも集り附き、自ら強くしてシロモンの子サラスアムを敵せしが、レハスアムハ少くまた心弱くして之を當る力なかりき。今またなだらハアビヤの子孫の手あはる。エホバの國に敵對せんとす、汝ら大軍なり、又サラスアムが作りて汝らの神と爲たる金の櫃ならんからと借あり。汝らアビヤの子孫たるエホバの祭司とレビ人等を逐放ち、國々の民の爲に多くに祭司を立てる。あらずや、即ち誰れもわれ少き牡牛一匹、牡羊七匹を携へきたりて手に充ずる者ハ皆かの神ならぬ者の祭司となることを得るなり。然ぞ我儕も携へてハエホバ我らの神おまじまして我儕ハ之を棄て、またエホバに事ふる祭司ハアビヤの子孫にして、從事をなす者ハレビ人なり。彼ら朝と夕ごとにエホバに燔祭を獻げ、香を焚くことを爲し、又供前のパンを純精の案の上に供へ、また金の燈臺とりの燈臺を擧げて夕ごとに點すなり、斯われらハ我らの神エホバの職守を守れども、汝らハ却て彼を棄たり。禮よ

レハスアム九章九十三節
レハスアム十章一節
レハスアム十章二節
レハスアム十章三節
レハスアム十章四節
レハスアム十章五節
レハスアム十章六節
レハスアム十章七節
レハスアム十章八節
レハスアム十章九節
レハスアム十章十節
レハスアム十章十一節
レハスアム十章十二節
レハスアム十章十三節
レハスアム十章十四節
レハスアム十章十五節
レハスアム十章十六節
レハスアム十章十七節
レハスアム十章十八節
レハスアム十章十九節
レハスアム十章二十節
レハスアム十章二十一節
レハスアム十章二十二節
レハスアム十章二十三節
レハスアム十章二十四節
レハスアム十章二十五節
レハスアム十章二十六節
レハスアム十章二十七節
レハスアム十章二十八節
レハスアム十章二十九節
レハスアム十章三十節
レハスアム十章三十一節
レハスアム十章三十二節
レハスアム十章三十三節
レハスアム十章三十四節
レハスアム十章三十五節
レハスアム十章三十六節
レハスアム十章三十七節
レハスアム十章三十八節
レハスアム十章三十九節
レハスアム十章四十節
レハスアム十章四十一節
レハスアム十章四十二節
レハスアム十章四十三節
レハスアム十章四十四節
レハスアム十章四十五節
レハスアム十章四十六節
レハスアム十章四十七節
レハスアム十章四十八節
レハスアム十章四十九節
レハスアム十章五十節
レハスアム十章五十一節
レハスアム十章五十二節
レハスアム十章五十三節
レハスアム十章五十四節
レハスアム十章五十五節
レハスアム十章五十六節
レハスアム十章五十七節
レハスアム十章五十八節
レハスアム十章五十九節
レハスアム十章六十節
レハスアム十章六十一節
レハスアム十章六十二節
レハスアム十章六十三節
レハスアム十章六十四節
レハスアム十章六十五節
レハスアム十章六十六節
レハスアム十章六十七節
レハスアム十章六十八節
レハスアム十章六十九節
レハスアム十章七十節
レハスアム十章七十一節
レハスアム十章七十二節
レハスアム十章七十三節
レハスアム十章七十四節
レハスアム十章七十五節
レハスアム十章七十六節
レハスアム十章七十七節
レハスアム十章七十八節
レハスアム十章七十九節
レハスアム十章八十節
レハスアム十章八十一節
レハスアム十章八十二節
レハスアム十章八十三節
レハスアム十章八十四節
レハスアム十章八十五節
レハスアム十章八十六節
レハスアム十章八十七節
レハスアム十章八十八節
レハスアム十章八十九節
レハスアム十章九十節
レハスアム十章九十一節
レハスアム十章九十二節
レハスアム十章九十三節
レハスアム十章九十四節
レハスアム十章九十五節
レハスアム十章九十六節
レハスアム十章九十七節
レハスアム十章九十八節
レハスアム十章九十九節
レハスアム十章百節

九代六

十代九

十一代十二

十二代十五

十三代十八

十四代二十一

十五代二十四

十六代二十七

十七代三十

十八代三十三

十九代三十六

二十代三十九

二十一代四十二

二十二代四十五

二十三代四十八

二十四代五十一

二十五代五十四

二十六代五十七

二十七代六十

二十八代六十三

二十九代六十六

三十代六十九

三十一代七十二

三十二代七十五

三十三代七十八

三十四代八十一

三十五代八十四

三十六代八十七

三十七代九十

三十八代九十三

三十九代九十六

四十代九十九

四十一代一百零二

四十二代一百零五

四十三代一百零八

四十四代一百一十一

四十五代一百一十四

四十六代一百一十七

四十七代一百二十

四十八代一百二十三

四十九代一百二十六

神より我らとどもに在して我らの大將とありたまふ、また其祭司等ハ喇叭を吹ならして汝らを攻む、

イスラエルの子孫よ汝らの先祖の神エホバに敵して戦ふ勿れ、汝ら利あらざるべければなりとヤラセ

ア夫兵を倒らの後に回らせたればイスラエルの前にあり供兵ハ其後にあり、エホバを願ふるに

敵前後にありければエホバにむかひて號呼リ祭司等喇叭を吹り、エホバの人々すなはち喇叭を擧げるが

エの人々喇叭を擧るにあたりて神ヤラセアとイスラエルの人々をアビヤとエホバの前に打敗り給ひしか

バイスラエルの子孫ハエホバの神より逃はしれり、神かく彼らを支が手に付したまひければ、アビヤと

エの民彼らを影多く撃殺せり、イスラエルの殺されて倒れし者ハ五十萬人ミナ備強の八なりき、是時に

ハイスラエルの子孫打負されエホバの子孫勝を得たり、是ハ彼らハ先祖の神エホバを頼みしが故なり

アビヤすなはちヤラセアを追撃て邑數箇を彼より取り、倒ちベツレエルの郷里、エシヤヤとエの郷里、

エホバとエの郷里是なり、ヤラセアハアビヤの世に再び權勢を奮ふことを得ず、エホバに擧れて死

り、然ぞアビヤハ權勢を得妻十四人を娶り男子二十二人、女子十六人を擧げたり、アビヤのの餘の作

爲どのの行爲どのの言ハ預言者イメの註釋を記さる

アビヤの先祖等とどもに擧りてアビヤの子アサに擧るれり、アサに代りて王となり、

アサの代わなりて其國十年の間平穩なりき、アサハその神エホバの目お善と禮正義と視たまふ事を行へ

り、即ち異なる祭壇を取らず諸の學師を置かず、像を打碎きアサハ像を敬倒し、エホバを命じてその先

祖等の神エホバを求めたまひ、その律法と誡命を行たまひ、エホバの一切の邑々より崇拜と日の像とを取除け

り、而して國ハ彼の前に平穩なりき、彼また守衛の邑數箇をエホバに建たり、是ハその國平安を得て此年頃

戰争なかりしに因る、即ちエホバ彼に安息を賜ひしなり、彼すなはちエホバに言けるハ我儕是等の邑を建

てるの四周に石垣を築き、城を起し門と西門とを設けん、我儕の神エホバを我儕求めしに因て此國なほ

我儕の前あり、我ら彼を求めたれば四方において我らに平安を賜へり、我ら彼ら阻滯なく之を建たり

アサの軍勢ハエホバより出たる者三十萬ありて、楯と戈とを執りベニヤミンより出たる者二十八萬ありて

小旗を執り己を彎く是みな大勇士なり、按にエホバハ人セラ軍勢百萬、人騎車三百輛を奉りて攻きたり

ベニヤミンに至りければ、アサこれにむかひて進み出で共にベニヤミンの谷において戰争の陣列を

立つ、時にアサの神エホバにむかひて呼ばりて言ふ、エホバよ力ある者を助くるも力なき者を助くるも

汝においてハ異なること無し、我らの神エホバよ我らを助けたまへ、我ら汝を倚頼み汝の名に記りて往て

此群集に敵る、エホバよ汝我らの神にさしませり、人をして汝に勝たせむ勿れと、エホバすなはちアサ

サの前にエホバの神に對してアサを擧げり、アサハエホバの神に對してアサを擧げり、アサはエホバ

に從かば民かれらもアサを擧げり、城エホバに對してアサを擧げり、アサはエホバの神に對してアサを擧げり、

パどの軍旅も打敗られたればなり、エホバの人々の得たる擧取物の甚だ多かりき、かれらハエホバの

四周の邑々を盡く撃つたればなり、是の邑々エホバを畏れたればなり、是ハおいて彼らハ一切の邑より物

を掠めたりしが、その中より得たる擧取物ハ夥多かりき、また家畜のなる天幕を襲ふて羊と驢を多く奪

ひ取り、而してエホバに歸りぬ

按に神の靈オダテの子アサリヤも臨みければ、彼出ゆきてアサを迎へ之を擧げるハアサハ

よびエホバとベニヤミンの人々と共に聽け汝等がエホバと偕に在る間ハエホバも汝らと偕に在るべし、汝

九代六

十代九

十一代十二

十二代十五

十三代十八

十四代二十一

十五代二十四

十六代二十七

十七代三十

十八代三十三

十九代三十六

二十代三十九

二十一代四十二

二十二代四十五

二十三代四十八

二十四代五十一

二十五代五十四

二十六代五十七

二十七代六十

二十八代六十三

二十九代六十六

三十代六十九

三十一代七十二

三十二代七十五

三十三代七十八

三十四代八十一

三十五代八十四

三十六代八十七

三十七代九十

三十八代九十三

三十九代九十六

四十代九十九

四十一代一百零二

四十二代一百零五

四十三代一百零八

四十四代一百一十一

四十五代一百一十四

四十六代一百一十七

四十七代一百二十

四十八代一百二十三

四十九代一百二十六

神より我らとどもに在して我らの大將とありたまふ、また其祭司等ハ喇叭を吹ならして汝らを攻む、

イスラエルの子孫よ汝らの先祖の神エホバに敵して戦ふ勿れ、汝ら利あらざるべければなりとヤラセ

ア夫兵を倒らの後に回らせたればイスラエルの前にあり供兵ハ其後にあり、エホバを願ふるに

敵前後にありければエホバにむかひて號呼リ祭司等喇叭を吹り、エホバの人々すなはち喇叭を擧げるが

エの人々喇叭を擧るにあたりて神ヤラセアとイスラエルの人々をアビヤとエホバの前に打敗り給ひしか

バイスラエルの子孫ハエホバの神より逃はしれり、神かく彼らを支が手に付したまひければ、アビヤと

エの民彼らを影多く撃殺せり、イスラエルの殺されて倒れし者ハ五十萬人ミナ備強の八なりき、是時に

ハイスラエルの子孫打負されエホバの子孫勝を得たり、是ハ彼らハ先祖の神エホバを頼みしが故なり

アビヤすなはちヤラセアを追撃て邑數箇を彼より取り、倒ちベツレエルの郷里、エシヤヤとエの郷里、

エホバとエの郷里是なり、ヤラセアハアビヤの世に再び權勢を奮ふことを得ず、エホバに擧れて死

り、然ぞアビヤハ權勢を得妻十四人を娶り男子二十二人、女子十六人を擧げたり、アビヤのの餘の作

爲どのの行爲どのの言ハ預言者イメの註釋を記さる

アビヤの先祖等とどもに擧りてアビヤの子アサに擧るれり、アサに代りて王となり、

アサの代わなりて其國十年の間平穩なりき、アサハその神エホバの目お善と禮正義と視たまふ事を行へ

り、即ち異なる祭壇を取らず諸の學師を置かず、像を打碎きアサハ像を敬倒し、エホバを命じてその先

祖等の神エホバを求めたまひ、その律法と誡命を行たまひ、エホバの一切の邑々より崇拜と日の像とを取除け

り、而して國ハ彼の前に平穩なりき、彼また守衛の邑數箇をエホバに建たり、是ハその國平安を得て此年頃

戰争なかりしに因る、即ちエホバ彼に安息を賜ひしなり、彼すなはちエホバに言けるハ我儕是等の邑を建

てるの四周に石垣を築き、城を起し門と西門とを設けん、我儕の神エホバを我儕求めしに因て此國なほ

我儕の前あり、我ら彼を求めたれば四方において我らに平安を賜へり、我ら彼ら阻滯なく之を建たり

アサの軍勢ハエホバより出たる者三十萬ありて、楯と戈とを執りベニヤミンより出たる者二十八萬ありて

小旗を執り己を彎く是みな大勇士なり、按にエホバハ人セラ軍勢百萬、人騎車三百輛を奉りて攻きたり

ベニヤミンに至りければ、アサこれにむかひて進み出で共にベニヤミンの谷において戰争の陣列を

立つ、時にアサの神エホバにむかひて呼ばりて言ふ、エホバよ力ある者を助くるも力なき者を助くるも

汝においてハ異なること無し、我らの神エホバよ我らを助けたまへ、我ら汝を倚頼み汝の名に記りて往て

此群集に敵る、エホバよ汝我らの神にさしませり、人をして汝に勝たせむ勿れと、エホバすなはちアサ

サの前にエホバの神に對してアサを擧げり、アサハエホバの神に對してアサを擧げり、アサはエホバ

に從かば民かれらもアサを擧げり、城エホバに對してアサを擧げり、アサはエホバの神に對してアサを擧げり、

パどの軍旅も打敗られたればなり、エホバの人々の得たる擧取物の甚だ多かりき、かれらハエホバの

四周の邑々を盡く撃つたればなり、是の邑々エホバを畏れたればなり、是ハおいて彼らハ一切の邑より物

を掠めたりしが、その中より得たる擧取物ハ夥多かりき、また家畜のなる天幕を襲ふて羊と驢を多く奪

ひ取り、而してエホバに歸りぬ

按に神の靈オダテの子アサリヤも臨みければ、彼出ゆきてアサを迎へ之を擧げるハアサハ

よびエホバとベニヤミンの人々と共に聽け汝等がエホバと偕に在る間ハエホバも汝らと偕に在るべし、汝